

Part II 卒論のかき方おしえます

ここでは、特集の二番目として卒業のための最後の通行手形とも言うべき“卒論”について、アンケートや卒論作成後の感想を中心に構成してみました。

まず、アンケートでは卒論のテーマやその特色、それを選んだ理由をお尋ねしてみたわけですが、予想に違わず(?)他の学部には見られないような多種多様のおもしろげ、興味深げなテーマが見受けられ、さすがに総合科学という学部の特異性の一端にふれたようでありました。(もちろんその中味にお目にかかったわけではありませんが。)

ついで、卒論紹介ということで、4名の方にそれぞれ卒論を書き終えての感想、苦心談、その方法論といったものを述べていただくと考え、4名の方にはいろいろとお忙しい上にまたお手を煩わせることになったのですが、そのおかげをもちまして、こうして空白を作ることなく「飛翔」をおとどけできる次第であります。

1 卒論のテーマとその特色

- 問(1)あなたの卒論のテーマは何ですか。
(2)その卒論の特色は何ですか。
(3)いつ、どのような理由で決めましたか。

地域文化コース

▶新宅弘昭 アジア研究

- (1)シンガポールの経済的特質
- (2)シンガポールの経済活動を通して、「人々の生活」を掴む。
- (3)昨年、シンガポールを訪れた時、その発展ぶりに驚いたから。

▶井上雄之 アジア研究

- (1)シンガポール華僑社会に関する社会経済史的一考察
- (2)学問的価値は何もなく、ただ時間をかけたこと
- (3)昨年の12月頃、東南アの華人系住民についてやろうと漠然と決め、破廉恥事件のあったシンガポール旅行後、自らを妥協させるため(?)上記のテーマを決定した。(ただ自らが、東南アでの日本の位置を理解する上では、その一助となったと思っている。)

▶津崎泰代 英米研究

- (1)ジャズの普及と変貌—1920年代アメリカ大衆文化
- (2)いままでの学部がほとんど取り上げなかったテーマをやる。
- (3)3年の冬休みから春休みにかけて。自分の好きな大衆文化の中から卒論のテーマを選びたかったし、1920年代が特におもしろそうだったので。

▶藤谷昌平 英米研究

- (1)アメリカ外交におけるポーランド問題
- (2)国内運動と米・ソ政策をからませ、冷戦の萌芽とみたい。

▶早川弘信 英米研究

- (1)世紀転換期の移民問題
- (3)3年次に教官の講義を聞いて興味をもった。

▶民谷昌弘 英米研究

- (1)19世紀末期のアメリカ社会—国内状況と外交
- (2)外交史上著しい転換を示した米西戦争を取り上げ社会の考察の一手段とする。
- (3)3年の後半、演習を受けながらアメリカ社会についての考察に関して何がその手段として有効かを考えた。

▶田中真志 英米研究

- (1)グレートプレーンズの開拓
- (2)地理的なアプローチ
- (3)3年次に教官と自分の副専攻などを考えて。

▶玉木俊幸 英米研究

- (1)マッカーシズムの社会的背景
- (3)山田ゼミで国際関係論演習をとった時(3年の後半)。

▶幾留修 英米研究

- (1)Scholarship boyの問題について
- (2)社会学的研究と文学的研究の両側面を備えているところか?

(3)演習に出て、専門書に触発された。

▶橋詰義次 比較研究

- (1)アール・ヌーヴォーとモリス
- (2)機械文明と工芸問題、頽廢
- (3)2年ほど前、東洋文化の西洋への影響がきっかけ。

▶天野雅郎 比較研究

- (1)パスカル
- (2)不明。
- (3)不明。「出会い」とはかくの如きものなり。

▶天羽康隆 比較研究

- (1)川端文学研究
- (2)古典との関連
- (3)最終的に決めたのは4年初。

▶清水冬絵 比較研究

- (1)“悪魔”と“侏儒”(アングロース・ピアスと芥川龍之助)
- (2)特になし。残るものがあるとすれば真空でしょうか。真空こそ残したいものです。
- (3)4年前に出会ったような気もするし、昨日のことのようでもあり、いつまでもつきまとってくるようである。理由は特別なし。偶然であり、かつ必然である。

社会文化コース

▶尾崎弘明

- (1)ソ連の対日参戦
- (2)軍事面と政治面の両面から考察する。
- (3)3年次のゼミで、この問題についてレポートしたのがきっかけでその問題を調べていくうちに興味をもってきたため、いつ頃とは言えないがだいたい3年次後半。

▶北川健治

- (1)現代文明の哲学的考察—仏教に光をあてて—
- (2)卒論で概論的に自己の学問の方向性を示し、歳月をかけて“文化創造”の研究を成就していきたいという方向性になっている。
- (3)2年の夏、西洋の没落、歴史の研究に出会い今まで読んできた古典からの流れによる現代のとらえ方を再び考察し、総合科学部に学ぶ一期生として文明、文化を大きくクローズアップする必要性を感じた。また、友人、先生方との語りも大きい助けとなった。

▶等雄一郎

- (1)発展途上国に関する開発理論の現段階
- (2)経済学と文化人類学の接点を探り、経済人類学

の新しい分野を拓く。

- (3)このテーマにカチッと決めたのは3年の2、3月頃。しかし以前から文化人類学と発展途上国の開発とに関心があったのでどちらか一方にするか、又はその結合したものにするか迷ったが結局3年のゼミの最終レポートが卒論の下敷きとなった。

▶杉田光雄

- (1)日本の化学工業
- (2)硫安を中心に、農業、化学工業の関連を考察
- (3)4年の初め。公害関係に興味をもち化学工業を取り上げたのであるが、その大きなメルクマールとして硫安(合成アンモニア)が出てきた。

▶井上郁男

- (1)行政指導
- (2)非権力行政と法治主義
- (3)就職を公務員関係と決めていたので、それと関連が深くまた行政法分野では未開であったから。

▶ M

- (1)日本の近代化について
- (2)既成の概念に囚われていないこと。
- (3)4年になってあわてて決めたのだが、はっきりとした理由はない。強いて言えば先生にも勧められたから。

情報行動科学コース

▶犬飼建雄 数理情報

- (1)定理の自動証明
- (2)コンピュータを使って(簡単な)定理が真か偽か判定する。
- (3)Computerを使いたかったので、4年の4月にすぐ決めた。

▶嶋田千恵子 数理情報

- (1)木探索による並び換え
- (2)グラフ理論の応用。
- (3)7月頃、前田渡教授と相談して。

▶定末修治 数理情報

- (1)有向グラフにおいてパスを求めるアルゴリズム
- (2)グラフをどのよにプログラミングするか。
- (3)7月頃、先生の推薦によって。

▶中島幸彦 生体情報

- (1)記憶の生化学—記憶に関するRNAについての—実験—
- (2)記憶物質の抽出、移植実験。
- (3)心理学における初めての動物実験であり、後輩

に生理心理学を旨とする学生がいることから実績を残しておきたかった。48年9月。

▶浅野哲史 行動科学

- (1) 囚人のデ・レンマ (ゲーム理論) の一例
- (2) 利得行列を確率に変えたこと。
- (3) 久保良敏先生退官記念コンパにて、人間行動の先生方から「テーマをまだ決めていないのか」と叱咤を受けた日。(4月18日) 実験手続きが簡単にデザインでき、今の力量で取り組めるテーマであること。

▶森井康幸 行動科学

- (1) 記憶固定について
- (2) 学部創立以来、心理学において初めて動物実験をした。

▶白木幸久 行動科学

- (1) 青年期における自己開放性の研究
- (2) 自分に関する情報をその意志がなくとも、知らせるためにはどういう条件(?)が必要かという、コミュニケを通して自分と他人との関係を知ろうとする研究
- (3) 夏休み前(せっぱつまっていた)。興味をもてたし、卒論として自分なりの研究で書けるのではないかと思ったから。

▶館利恵 行動科学

- (1) 配偶者選択の基準に関する調査研究
- (2) 卒論発表会を聞きにおいて。
- (3) 2月。秘密。

環境科学コース

▶松波和光

- (1) 偏微分方程式の数値解析
- (2) コンピュータ使用による反復計算。流体力学に関連。
- (3) よく覚えていないが、大体6~7月頃で、以前からコンピュータを用いて何かやってみたいと思っていたから。

▶今井知之

- (1) 金属水素化合物の物性
- (2) 未だ、金属水素化合物なるものがはっきりわかっていない。
- (3) 3月末、先生との長期交渉により。

▶大場雅信

- (1) バナジウムクロロフィルの電気化学的研究
- (2) 酸化、還元、電位。
- (3) なんとなく無機化学をやりたかった。

▶柏田正博

- (1) 遷移金属水素化合物の物性について
- (2) 金属水素化合物という新しい分野と未来。
- (3) どんな遷移金属が興味深いか、どんなおもしろい現象があるかを予備実験した後、藤井先生と討議して決めた。(10月ごろ)

▶佐野博道

- (1) チャの細胞学的研究
- (2) よくわからない。
- (3) 来年から茶の行商を強いられているので。

▶村田 格

- (1) 小瀬川流域の水分解析と水利用
- (2) 視点が多角的である点。
- (3) 計画、アセスメント関係をやりたと思っていたので決めた。“水”を材料にしてトレーニングするつもりで。ここがスタートだからネ。3年の12月に決心したが、対象地域を小瀬川流域にしたのは4年の6月だった。

▶岸本 宏

- (1) 産業廃棄物の利用と資源
- (2) なし。
- (3) なんとなく。

▶藤本 睦

- (1) 岡山県芳井町南石灰岩地域の地質学的ならびに環境論的研究
- (2) 2月に先生からすすめられて。

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
地域	大井戸朋子	Wilhelm Busch 人と作品	地域	林 香代子	宮沢賢治 一芸術の研究一 「農民芸術概論をめぐる」
	垣田 久美	ヨーロッパ的精神とヴェレリー		堀川 静夫	“Franglais による現代フランス語のゆれ”
	川田 良一	化政期の悪所とその文化 一悪所の位置的考察を中心に一			村瀬 紀美
	菅原 純子	維新期の民衆思想家 一窪田次郎についての一考察一	社会	浅山 良一	入会林野近代化法の意義と問題点
	佃 雅文	近世中国山地の鉄山労働者に 関する考察		榎 良輔	教師論論争史 一「教育労働者」概念の発展一

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名	
社会	甲斐 直樹	わが国の医療保険制度の 社会経済学的分析	情報	越智 宏	副腎皮質ミトコンドリアにおけるス テロイド生合成機構	
	岸本 誠	建物の区分所有についての考察		岸田 一	統計解析パッケージ・プログラムの 研究	
	衣笠 正純	近代日本における抵当制度の展開		木下 年夫	定理の証明	
	後藤 展久	サルトル存在論の概要		坂内 敦	関数解析の手法によるサテライト・ ランデブー終端制御	
	佐田味良章	公害防止行政における法律と条例		佐々木康人	ラット腹水肝癌のリボ核蛋白	
	庄野 幹雄	行政事件訴訟法における訴えの利益		洲崎 敏伸	微小管再機構に関する研究	
	土田 尚敬	George Berkeley: An essay towards a new theory of Visionを中心としたBerkeley思 想についての多少の考察		高岡 稔	論理回路網のグラフによる解析	
	土井進一郎	自動車産業の構造と特質 —弱者を通してみた自動車産業—		武田 由美	太陽虫の細胞接着に関する研究	
	中 洋一郎	農業協同組合の現状と課題 —地域社 会の変貌と農業協同組合の変質—		野田 泰三	研究者業績の要因分析	
	中村 英文	原爆投下の疑問と考察		原田 清子	太陽虫のCellcycle (細胞周期) とLife cycle (生命周期)	
	西尾 順子	学校事故救済法制度についての考察		環境	板野 直文	鉄・ニッケルインバー合金の原子 環境的効果
	西田 計	レヴェラーズ研究		上野 和伝	植物と微生物との交互作用に 関する研究	
	藤原 成幸	原子力発電の問題点		小寺 秀樹	広島湾の水質汚濁特性に関する研究 —マンガン, 鉄, カドミウムの分布 と他の汚濁指標との関連性—	
	吉田 仁	広島市の戦後の都市景観形成について の一考察 —国有地の転用を指標と して—		長弘 通男	東広島市におけるタンポポ類の分布 状況とその環境指標性について	
情報	岩田 尚文	状態推定機構を用いた追跡・回避微分 ゲームに関する研究	平瀬 則之	超微量水銀の分析法の検討と広島湾 における水銀の分布の測定		
	植木 健	精神分裂病者のコミュニケーション行 動—対人距離とEYE-CONTACTの補 完関係に関する研究—	森 重生	牛の副腎ミクロソームのチトクロ ムP-450の精製と性質		
	大下 玲子	統計学の研究				

2 卒論を書き終えて

雑 感

地域文化 天野 雅郎

わずかばかりの緑にも
日だまりと日かげとがある
公園に来て俺達は
ひとときのやすらぎをさがす
しばらくはこうして
止まった時間をみていよう

僕の知り合いに一人の頭の少々弱そうな少年がいる。尤もそれは僕の単なる臆測にすぎないわけで、少年はひょっとしたら凄く頭の良い少年なのかもしれないのだ。それに実を言えば、知り合いという言

い方も少し可笑しいのかもしれない。僕と少年とはよくこの公園で出会うのだが、僕は彼のことを少しも知ってはいないし、彼と口をきいたことだってないのだから。でも誰にだってこうした知り合いが何人かはいるのだろうと思う。今日も僕が石のベンチに腰を下していると、またいつものように少年が犬を連れてやってきた。少年が夕暮れを好きなのか、それとも犬の方が夕暮れを好きなのか、僕は知らない。少年はどういうわけか今日は僕の隣のベンチに坐って、時折僕の方を見やったりしている。別に僕を見ているわけではないのだろうが、ひょっとして少年の眼には僕が酷く奇怪な人間にでも映っているのではないだろうかと思ってみたりもする。僕は随分と前からぼんやりとこのベンチに腰かけている。何故か僕の心は酷く穏やかだった。別に自称無神論